

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	日本赤十字武蔵野短期大学	整理番号	2-3-013
応募テーマ	主として教育方法の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	看護学における PBL・チュートリアル教育		
申請単位	学科単位		
申請担当者	森 美智子		
<p>(取組の概要)</p> <p>日本赤十字武蔵野短期大学は、赤十字の基本理念である人道に基づき、看護の分野において社会の要請に応え得る人材を育成することにある。特に災害救護時の異なる価値観の人とのコミュニケーション能力が求められ、これに対応する教育の一つとして、PBL・チュートリアル教育がある。チュータのもと少グループの学生が問題基盤型の課題を自己学習と討議で問題解決をしていく、学習者主導の自己開発型学習形態である。</p> <p>1993 年から全学的に検討に入り、カリキュラム検討他多くの委員会を設置し、人的・物的環境を整備し、1998 年度から 2 年次に臨床看護学、2000 年度から 1 年次にフィジカルアセスメント、2002 年度から 3 年次に臨地実習で、週 1～2 コマ・通年で実施している。</p> <p>実績として、形成評価・授業評価ともに高く、学生の達成感・満足感がみられる他、図書館利用率も高く、全体に活気があり、教育効果は高い。</p> <p>今後の取組課題は、臨地実習チュートリアルは、対象は実際の患者であり、現実の問題を体験し解決するもので、思考過程が異なり、意義深い教育方法で、これを発展させることにある。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、日本赤十字武蔵野短期大学の教育目標である複雑な医療現場で臨機応変に対応できる優秀な看護師を生み出すために、チュートリアル教育を導入し、チュータのもとで少人数グループの学生が自己学習と討議によって問題解決能力を養成するものです。当大学は全学的な組織のもとで、1993 年に検討を開始以降、5 年間の準備期間を経て 1998 年度から実施に移しています。学生の自己評価ならびに教育の評価とも、3 年間を通して成長率を示す優れた特色があり、他の短期大学に参考になる事例が多いと思われます。</p>			